



3月のほけんだより

平成31年3月発行
はごろも保育園

今年度も残すところあと1か月となりました。1年前を思い起こし、子どもたちひとりひとりの表情、行動に、あらためて大きな成長を実感しています。みんな元気に新年度を迎えられるよう、最後のひと月、たいせつに過ごしましょう。

3月3日は耳の日です 耳を健康に！



ことばと聴力

0～4歳は、ことばを覚える重要な時期。このとき両耳が聞こえない状態だと、ことばの習得が難しくなります。

難聴は生まれつきのことが多いのですが、中耳炎など耳の炎症から難聴になることもあります。子どもの耳の健康について、日ごろから気をつけていくようにしましょう。



子どもの「聞こえ」チェック

「聞こえてる？」と心配になったら、確認してみましょう。

- 大きな音に驚いたり、目を覚ましたりするか
- おもちゃの音に振り向くか
- 周囲の呼びかけに振り向くか
- 音楽に合わせて踊るか
- 好きな音楽やCMソングなどに反応するか
- 声のみの指示に従うか
- 発達にそって、習得することばは増えているか
- ことばのまねっこをするか



気をつけよう！ 耳の病気

外耳炎

原因

耳の入り口から鼓膜までの外耳道に炎症や湿しんができた状態。耳あかが原因になることもある。

症状

湿しんができるとかゆい、耳を触ると痛い、発熱やうみが出ることもある。

治療

抗生物質の点耳薬や内服薬を使うと、1週間程度で治まる。

ポイント

外耳炎になったら、耳をむやみに触らないように。

急性中耳炎

かぜが原因で起こることが多く、ウイルスや細菌が中耳に達して炎症を起こした状態。

激しい耳の痛みと、高熱。一時的な難聴・閉そく感がある。耳だれが出たり、乳児の場合は、おう吐や下痢が見られることも。

化膿していなければ、抗生物質の服用で、ほぼ治まる。

繰り返し中耳炎を起こすと、滲出性中耳炎になりやすいので、きちんと治すように。

しんじゅつせい 滲出性中耳炎

中耳内に分泌液がたまった状態。かぜや、急性中耳炎の繰り返しの原因で起こる。

痛みや熱はないが、耳が聞こえにくくなったり、閉そく感・耳鳴りがある。

必要に応じて鼓膜を切開し、たまった液を抜いて様子を見る。分泌液が吸収されて、自然に治ることも多い。

痛みがなく気づきにくいので、耳の聞こえや様子の変化に注意。